

【一宮町長賞】 たきた 滝田 ちえ 千恵

あなたへ

今日はあなたの誕生日だね。「そんなことは俺には関係ない。」と言うあなた。そうは言ってもこの世に生を受けた日よ。生まれたこと、生きていることは奇跡。特別なお祝いは出来ないけれど、お手紙書くことにしたよ。

東日本大震災があった年の夏の終わりに、病院から「ご主人が救急車で運ばれて来ます。すぐ連絡下さい。」と携帯の留守録を聞いた時から9年経ったね。仕事中に電信柱から落ちて重傷。主治医はレントゲンの画像を見せながら、頭蓋骨骨折・外傷性クモ膜下出血から始まり、内臓の損傷や、あちこちの骨折を水が流れるように説明したけれど、私はパニック状態。ダメなのか、大丈夫なのか。体の不自由と付き合う人生なのか。詰め寄る私に、命に別状は無いけれど退院までには暫く時間がかかる、クリスマスの頃かな、というのが主治医の返答だったっけ。

そこからあなたは頑張ったね。コツコツと地味な事をリハビリになるから、とやっていた姿を思い出すよ。その甲斐あって大きな後遺症もなく、64日目に退院し誕生日を自宅で迎え、周囲には脅威の回復力と驚かれたわ。その後は紆余曲折しながらも弱音一つ吐くことなく、仕事でも家族を養えるだけの状態にしてくれたあなた。

嫌な事や不安もあっただろうけど、愚痴も言わずに頑張ってくれて感謝しているよ。ありがとう。

あなたの誕生日はハロウィン。この日と満月が重なるのは46年ぶりで、この奇跡的な出来事、次回は38年後。95歳のあなたと93歳の私と一緒に月を愛でる姿は、そのままでもコスプレになりそうね。

そうしてこれからも苦しい事も楽しい事も一緒に味わっていこうよ。

これからの1年も素敵な日々でありますように。改めて、誕生日おめでとう。

あなたの妻より

(福島県/55歳/女性/主婦)

これまでの感謝と誕生日おめでとうの意味で“手紙”を書きました。これからの人生、苦しみも楽しさも色々あるけれど共に「乗り越える」のではなく「味わって」いき、味わい深い夫婦、そして人生であればいいなと思います。